

339

1062



始

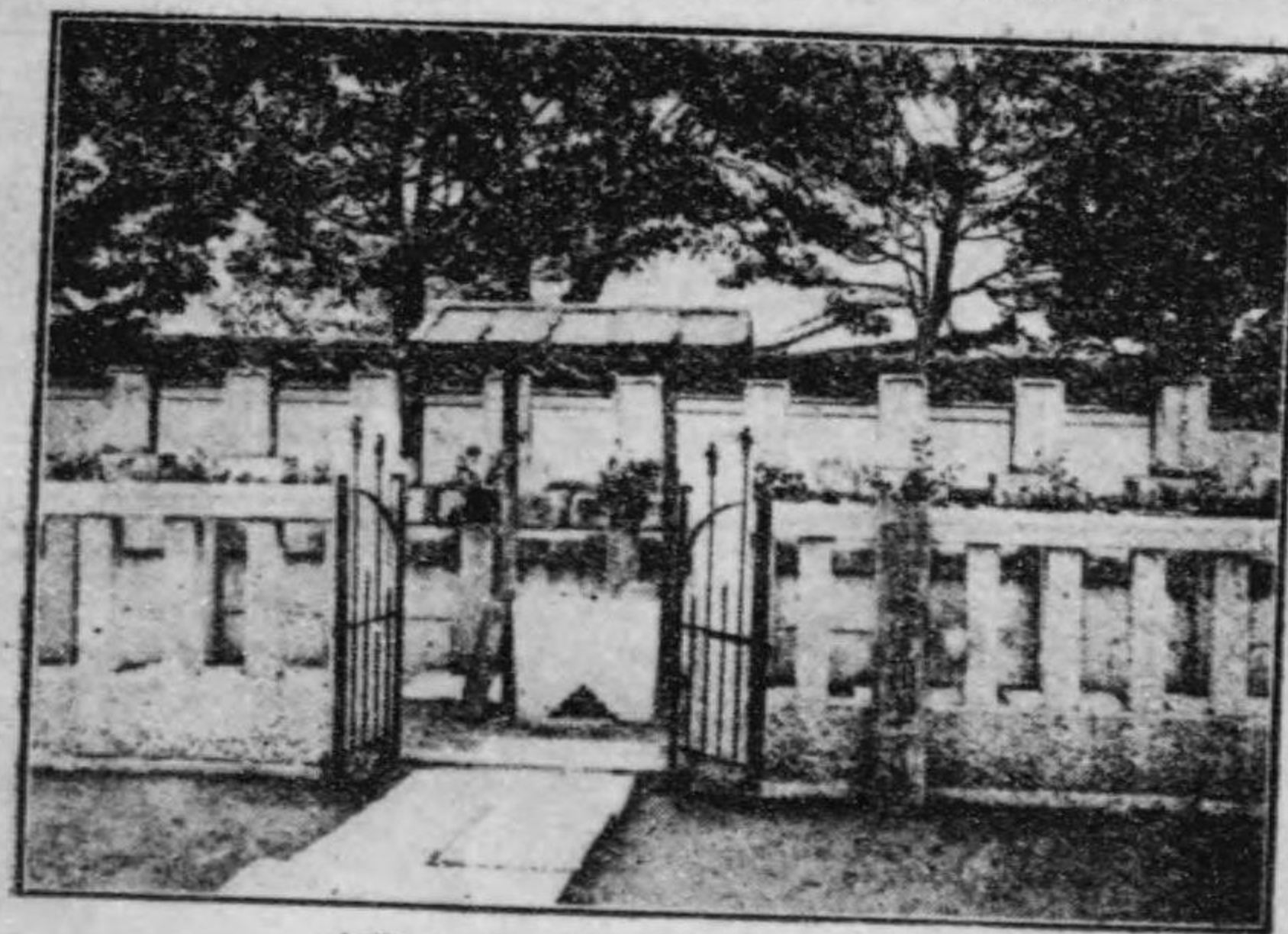


●成就寺 は南へ一丁宿屋町にあり日蓮宗で應永年間の創建であつて天文年中、六條本國寺の日助上人が亂を避けて此寺に居住せしと云ひ今に六條の名を殘してゐる

●金光寺 は成就寺に隣して仁明天皇の御宇堺沖より網にかゝりて揚しといふ薬師如來を本尊としあれば別に網道場ともいふ

●寶珠院 は金光寺の東にあり堂は荒廢されたるも境内の土佐藩十一士の碑石は明治元年二月五日佛國人十餘名端艇に乗じ堺浦より堺に上陸し言語通せざる爲に有ゆる暴行を敢てしたれば警備の任にありたる土佐藩の二小队之を皆殺したり爲に下手人の二十名に對し刺腹を命じ同月廿三日妙國寺内に於て佛國人隨檢の下に箕浦元章以下命を待つて自若として刺腹して死に就きければ十一名の死を見て後九名を

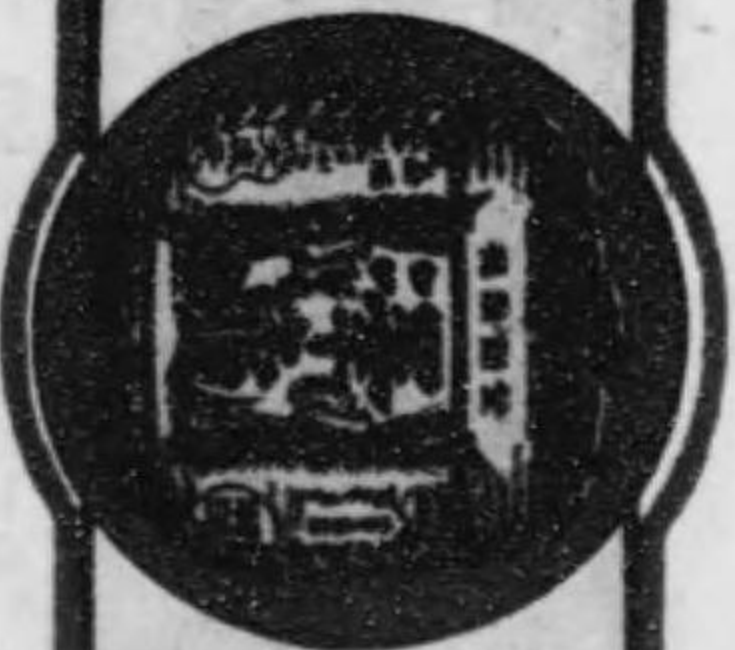
檢するの勇氣なくヨカノと驚きて去る、此遺骸を寶珠院に葬りたり今に殘る十一士の墓石には香華を供し用訪の絶へ間ない大正九年十一士の靈は東京靖國神社に合祀さる(寫眞参照)



(墓の士一十)院 珠 寶

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4

酒 清 等 優
カワサ
 社 會 名 合 宅 市 塚



標 高 聖
浦 嶋
 袋 市 社 本 塚
 社 會 式 探 袋 足 嶋 浦
 番 三 〇 七 番 電

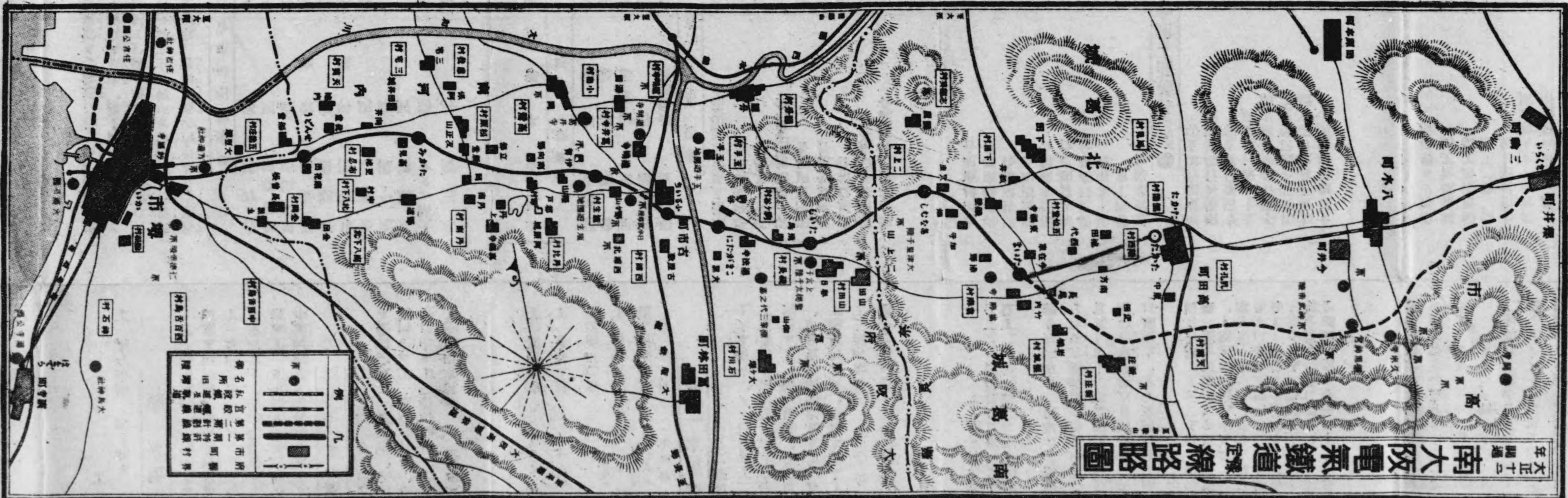
標 高 聖
市 會 名 合 谷 柴
 (番 二 五 番 電) (番 一 三 番 電)

標 高 聖
分 界
 物 教 諸 通
 山 本 商 店
 (番 八 番 電)

JAPANESE SAKE
酒 家 肥 田
 標 高 聖

標 高 聖
油 醬 上 最 力 堂
 口 之 山 野 柴 元 龍 廠
 每 五 〇 三 番 電

標 高 聖
酒 清 延 命
 優 等



大 阪 市 區 大 阪 市 區 公 道 局 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地	大 阪 市 區 大 阪 市 區 公 道 局 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地	大 阪 市 區 大 阪 市 區 公 道 局 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地	大 阪 市 區 大 阪 市 區 公 道 局 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地	大 阪 市 區 大 阪 市 區 公 道 局 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地 大 阪 市 區 公 道 局 附 屬 地
---	---	---	---	---

339-1062

堺名勝案内記

總説

堺市を紹介するには先づ堺市の沿革より説き起さねばならんが限りある紙面に讀者の満足に供す可きは到底至難事なればなり、故に其一端の記述に止めれば之を諒されたし。神武帝より上古大和朝廷以降の堺市は我國の尤も重要な地點たりし事はよく人の知る處ならん、殊に戰國時代より安土桃山時代に至りては遠く亞細亞諸國と通商し商家は殷富し日本全國第一の殷賑地として内外の商權を堺市に掌握したりしなり、堺が町になりしは應永年間山名氏清

がこの地に城を築いて泉府と稱せしより始まり、其後細川満元、三好家基を経て世は織田信長の治める時に當り天正十年逆臣明智光秀の旗揚より世は急變して豊臣の天下となり、此時堺は小西行長の領なり豊臣秀吉居城を大阪の地に移して大阪の繁榮策に着眼したるが當時の堺は現今の東京大阪の如く全世界的互市場なれば隆々たるものなりしが漸時商權を大阪の地に奪はる、徳川氏の世に堺に奉行を置き幕府直轄とし明治に至り大阪府に編入せられ一時堺縣を置きしが間もなく大阪府に複歸して今日に至る

▲明治廿二年市制實施以來卅年此間堺市の商工業は漸時勢力を増して發展し市の膨脹と共に堺市は多年の懸案宿題としたりし接近町の港、向井の兩町を市に編入し擴張したるを以て兩翼を延ばしたる一大堺市となり、茲に堺市が市制實施以來の人口戸數を記すと以下の如くである(明治廿二年現在戸數九一五二戸、人口四七六六七人)(同卅二年現在戸數三二二戸、人口五〇八〇一人)(大正三年戸數一三二七〇戸、人口六八〇六二人)(同五年戸數一三四九八戸、人口七一〇八五人)(同七年戸數一四一三二戸、人口七四九〇〇人の増加を示し大正九年四月接續町の港向井兩町を合し▲戸數に於て一六七二四戸となり人口に於て八萬五千九百廿四人に激増せり

●高須停留所 南海鐵道阪堺支線にて大和川の鐵橋を涉つて南詰の大和川停留所を通過して次の停留所が高須停留所で即ち須神社前である位置は堺市北半町東二丁土居川に面し境内は幽閑なり、此神社の附近は古へ高須遊廊のありし地にして一休和尚地獄太夫によつて其名高し

●本派本願寺別院 高須神社より南へ六丁電車の便では高須停留所、綾之町、神明町の停留所にて下車東二丁に(本派本願寺)の別院がある、文明年間檜木屋顕なる人自分の居宅を寺にして蓮如上人に捧げたと云ふので今に檜木屋御堂と云ひ傳へられ或は北御坊と稱す

●善長寺 別院に隣して善長寺は淨土宗 本尊は十一面觀世音、永正年間三好長義が靈夢によつて寺内の松樹の下より掘り出せりと傳へ此寺を別名松の觀音とも稱す

●高須神社 南海鐵道阪堺支線にて大和川の鐵橋を涉つて南詰の大和川停留所を通過して次の停留所

339-1062

堺名勝案内記

總説

堺市を紹介するには先づ堺市の沿革より説き起さねばならんが限りある紙面に讀者の満足に供す可きは到底至難事なればなり、故に其一端の記述に止めれば之を諒されたし。神武帝より上古大和朝廷以降の堺市は我國の尤も重要な地點たりし事はよく人の知る處ならん、殊に戰國時代より安土桃山時代に至りては遠く亞細亞諸國と通商し商家は殷富し日本全國第一の殷賑地として内外の商權を堺市に掌握したりしなり、堺が町になりしは應永年間山名氏清

がこの地に城を築いて泉府と稱せしより始まり、其後細川満元、三好家基を経て世は織田信長の治める時に當り天正十年逆臣明智光秀の旗揚より世は急變して豊臣の天下となり、此時堺は小西行長の領なり豊臣秀吉居城を大阪の地に移して大阪の繁榮策に着眼したるが當時の堺は現今の東京大阪の如く全世界的互市場なれば隆々たるものなりしが漸時商權を大阪の地に奪はる、徳川氏の世に堺に奉行を置き幕府直轄とし明治に至り大阪府に編入せられ一時堺縣を置きしが間もなく大阪府に複歸して今日に至る

▲明治廿二年市制實施以來卅年此間堺市の商工業は漸時勢力を増して發展し市の膨脹と共に堺市は多年の懸案宿題としたりし接近町の港、向井の両町を市に編入し擴張したるを以て兩翼を延ばしたる一大堺市となれり、茲に堺市が市制實施以來の人口戸數を記すと以下の如くである(明治廿二年現在戸數九一五二戸、人口四七六六七人)(同卅二年戸數九三三二戸、人口五〇八〇一人)(大正三年戸數一二七七〇戸、人口六八〇六二人)(同五年戸數一三四九八戸、人口七一〇八五人)(同七年戸數一四二二一戸、人口七四九〇〇人の増加を示し大正九年四月接續町の港向井兩町を合し▲戸數に於て一六七二四戸となり人口に於て八萬五千九百廿四人に激増せり

●高須停留所 高須神社より南へ六丁電車の便では高須停留所、綾之町、神明町の停留所にて下車東二丁に(本派本願寺)の別院がある、文明年間榎木屋消顯なる人自分の居宅を寺にして蓮如上人に捧げたと云ふので今に榎木屋御堂と云ひ傳へられ或は北御坊と稱す

●善長寺 別院に隣して善長寺は淨土宗 本尊は十一面觀世音、永正年間三好長義が靈夢によつて寺内の松樹の下より掘り出せりと傳へ此寺を別名松の觀音とも稱す

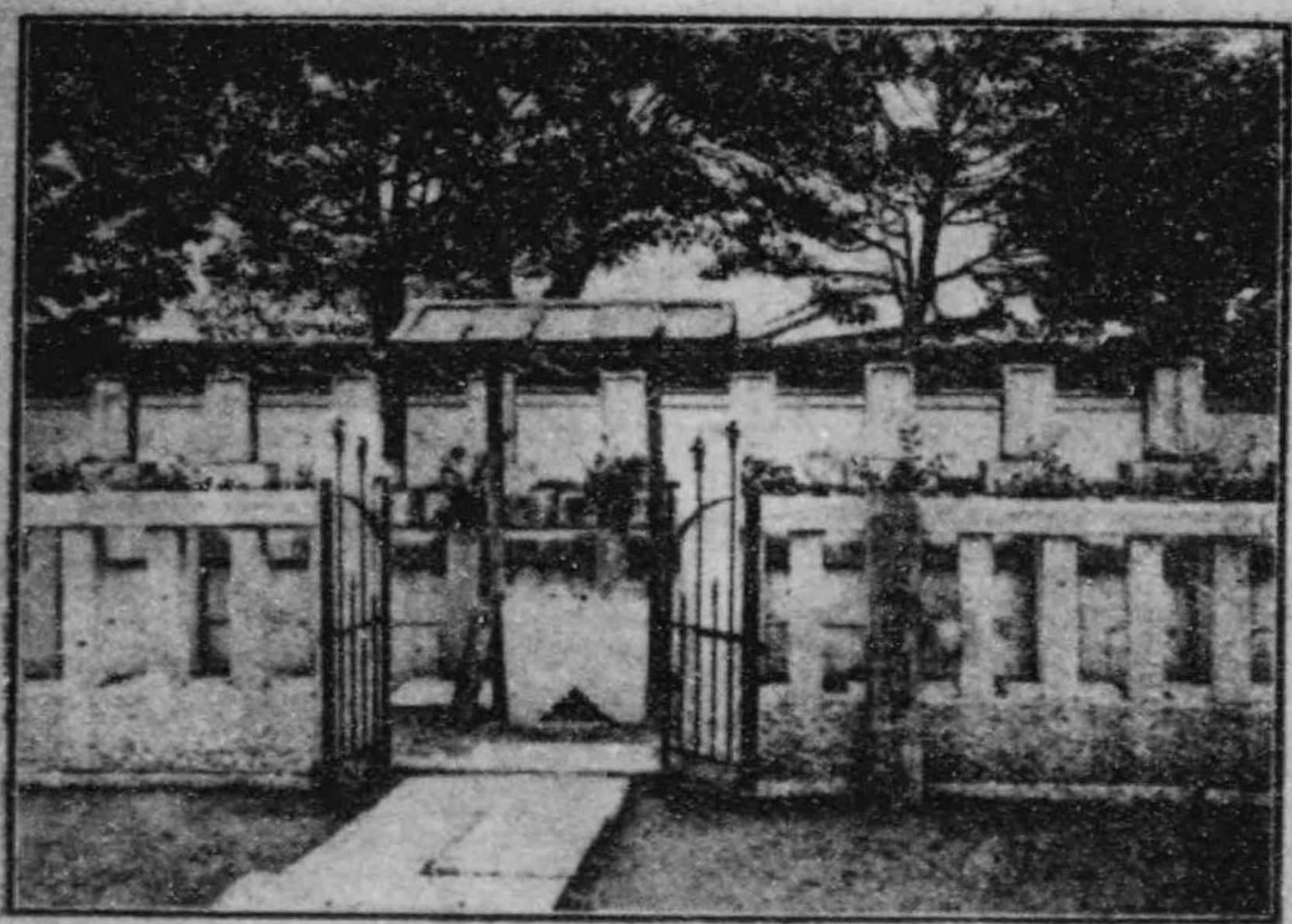
●高須神社 南海鐵道阪堺支線にて大和川の鐵橋を涉つて南詰の大和川停留所を通過して次の停留所

●成就寺 は南へ一丁宿屋町にあり日蓮宗で應永年間の創建であつて天文年中、六條本國寺の日助上人が亂を避けて此寺に居住せしと云ひ今に六條の名を殘してゐる

●金光寺 は成就寺に隣して仁明天皇の御宇堺沖より網にかへりて揚しといふ薬師如来を本尊としあれば別に網道場ともいふ

●寶珠院 は金光寺の東にあり堂は荒廢されたるも境内の土佐藩十一士の碑石は明治元年二月五日佛國人十餘名端艇に乗じ堺浦より堺に上陸し言語通せざる爲に有ゆる暴行を敢てしたれば警備の任にありたる土佐藩の二小隊之を皆殺したり爲に下手人の二十名に對し腹を命じ同月廿三日妙國寺内に於て佛國人八名の下に箕浦元章以下命を待つて自若として謝罪して死に就きければ十一名の死を見て後九名を

檢するの勇氣なくヨカノと驚き去る、此遺骸を寶珠院に葬りたり今に殘る十一士墓石には香華を供し弔訪の絶へ間ない大正九年十一士の靈は東京靖國神社に合祀さる(寫眞参照)

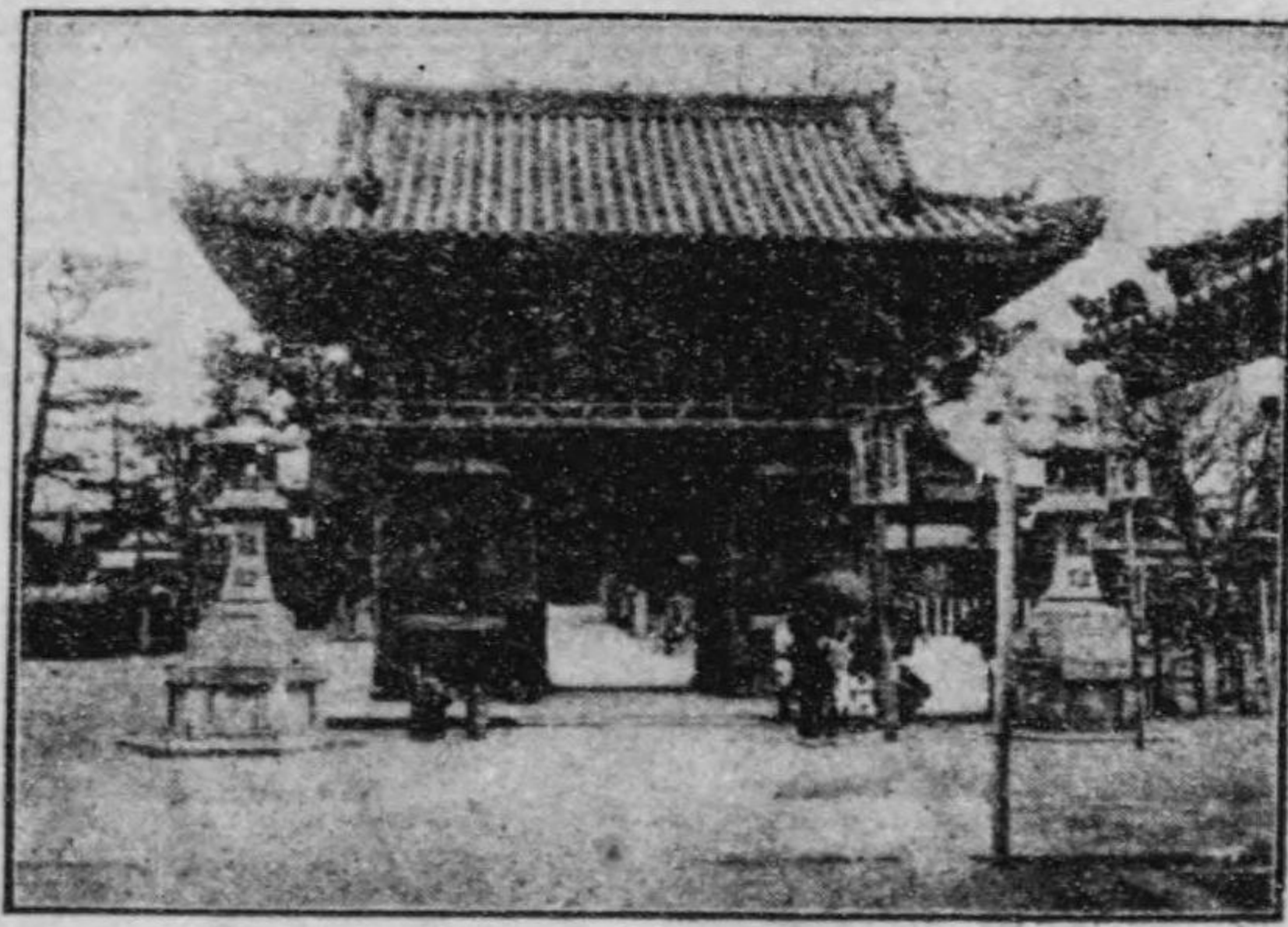


(墓の士一十)院珠寶

●妙國寺 は材木町東三丁にあり日蓮宗の名刹にて永祿年間日蓮僧止の開基にて僧正は堺市の豪商油屋常吉の子なりと傳へ三好長慶の叔父實久は地區を寄進し油屋常吉は堂樓を建て輪奐の美を極めたり、豊臣秀吉、小西行長其他の從臣も皆大檀那であつた元和年間關東關西の大戦に大阪落城の際大野道賢此寺に火を放ちたれば此大堂宇も烏有に歸したりしが後年再建せらる、庭内の蘇鐵は信長時代の逸品にして信長塚の地より此蘇鐵を江州安土の城に引き歸りたるに毎夜此蘇鐵妙國寺へ歸るゝの聲を出すより信長の如き強膽なる人も之に驚きてか亦々塚へ返されたりと云ふ境内三重の塔は名匠左り甚五郎の作り寶物拜觀また見るべきもの數多し

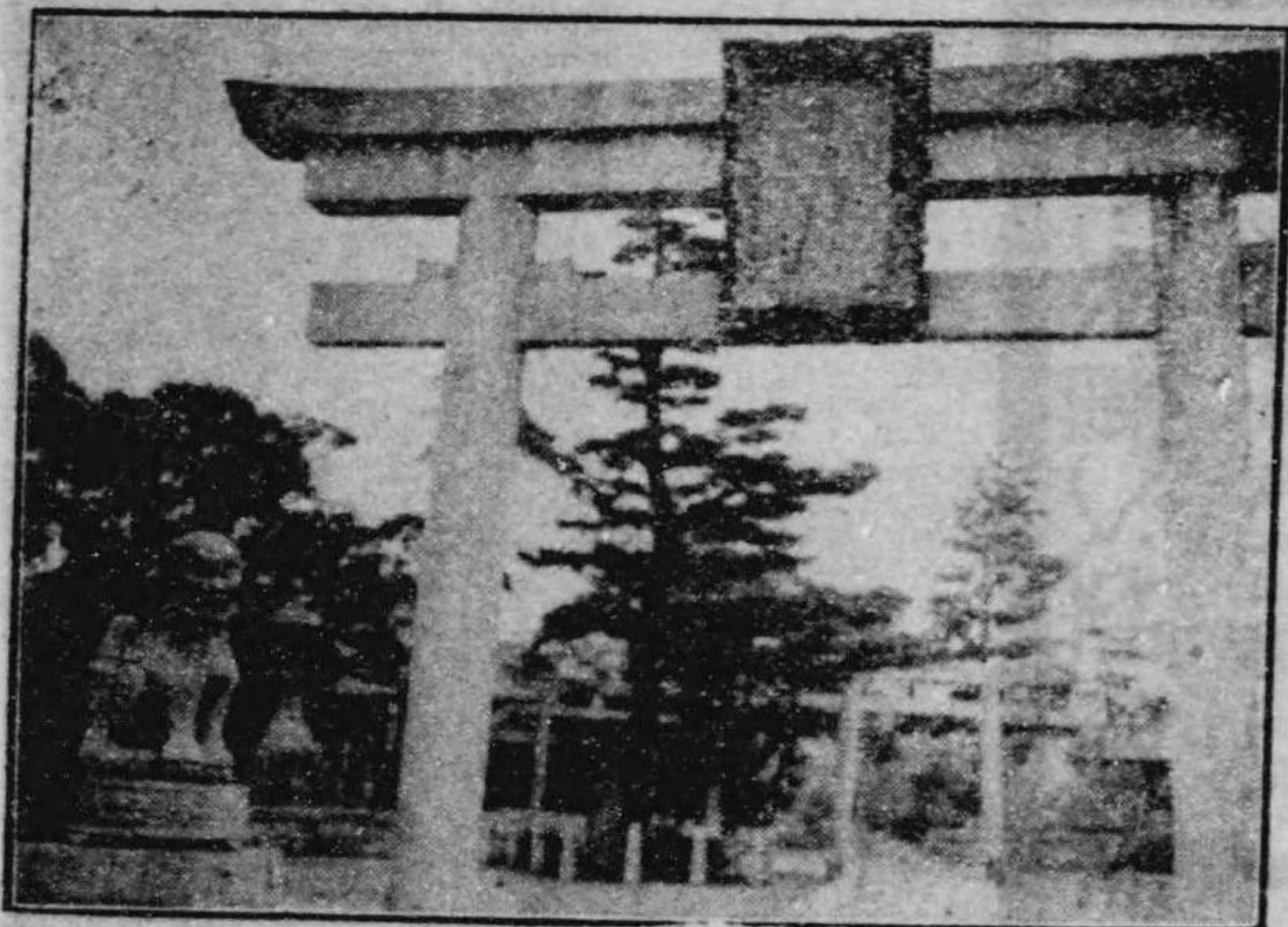
●菅原神社 は前記妙國寺の西門を南に二丁餘、阪堺線花田口停留所より東へ一丁の處即ち戎之町東

一丁にありて創建詳ならずも維新前は天幕宗にして常樂寺と稱してゐたが明治初年郷社に列せられ祭神は天穗日命、野見宿禰、菅原道真を祭る神社で我國の七天神の



(社神原菅)

一と稱する菅公自作の像を納めあり境内四千里に近く壯麗なり、合祀するは琴平社、神明社、熊野社等あり此社は山之口筋に通ずる盛りに場なる爲參拜者の絶へ間なし、



(社神遠方)

北門内西側に小劇場戎座あり(寫眞参照)

●東本願寺別院 櫛屋町東四丁にありて南御坊と稱し先年堂宇は失火の爲に烏有に歸し目下再建中なり

●方違神社 は向井町三國ヶ丘にありて神功皇后を祀つた社で方除の神様として護符を受に來る者遠く數十里を隔たりたる地より態々參拜せるを以て其名高し境内に東原社と稱して素盞男命を祀つた社がある(寫眞参照)

●反正帝御陵 は方違神社の南畔にありて百舌鳥耳原南陵と稱す

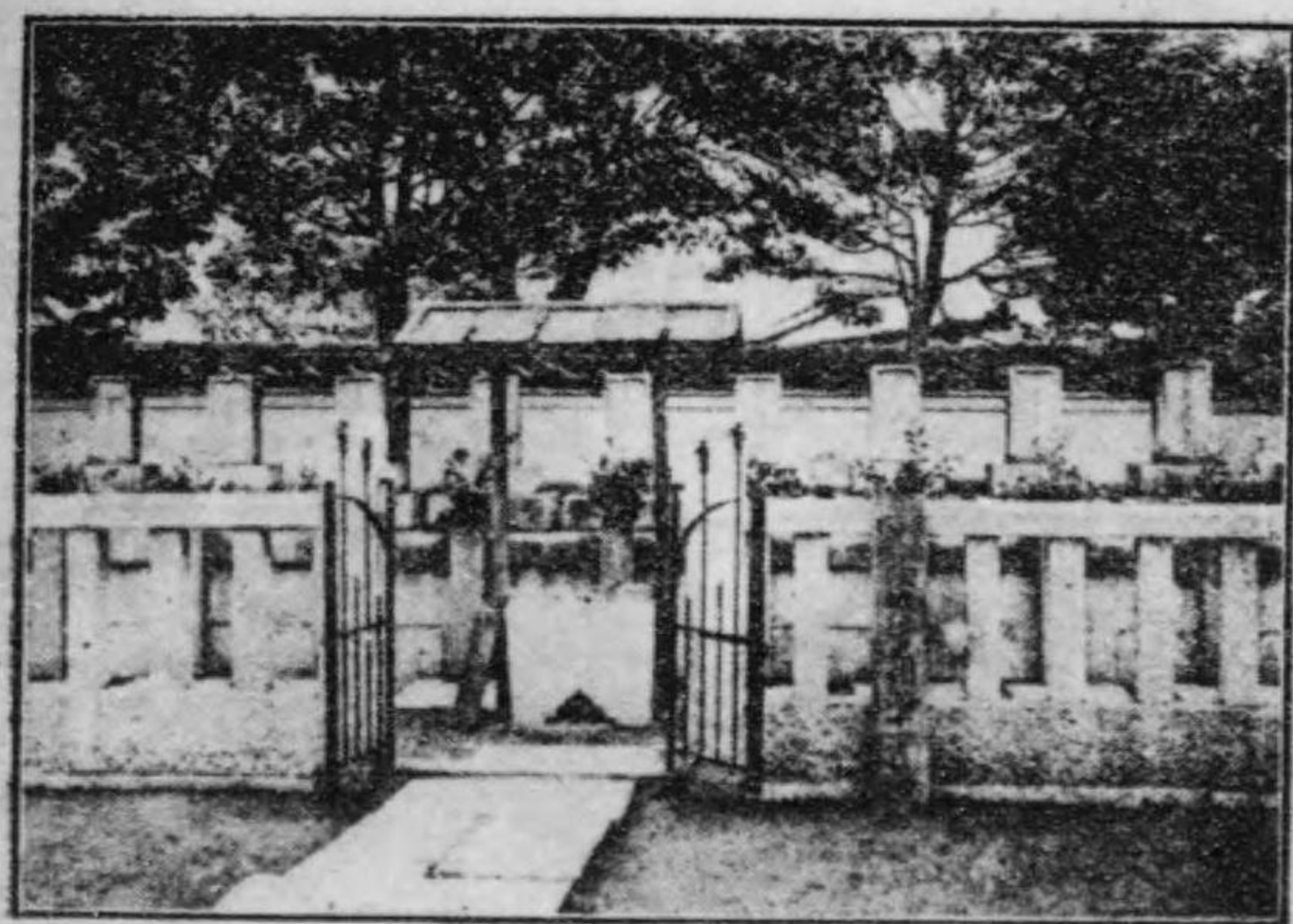
●紅谷庵 は反正帝御陵の南半丁の處にあり、もと堺の豪商紅谷某の別荘であつて牡丹花宵柏が此處に住し太永七年此處に没した、宵柏の持佛の間を佛殿としたのが此庵で本尊は觀音大士である、▲府立

●成就寺 は南へ一丁宿屋町にあり日蓮宗で應永年間の創建であつて天文年中、六條本國寺の日助上人が亂を避けて此寺に居住せしと云ひ今に六條の名を殘してゐる

●金光寺 は成就寺に隣して仁明天皇の御宇堺沖より網にかゝりて揚しといふ薬師如來を本尊としあれば別に網道場ともいふ

●寶珠院 は金光寺の東にあり堂は荒廢されたるも境内の土佐藩十一士の碑石は明治元年二月五日佛國人十餘名端艇に乗じ堺浦より堺に上陸し言語通ぜざる爲に有ゆる暴行を敢てしたれば警備の任にありたる土佐藩の二小隊之を皆殺したり爲に下手人の二十名に對し腹を命じ同月廿三日妙國寺内に於て佛國八座檢の下に箕浦元章以下命を待つて自若として割腹して死に就きければ十一名の死を見て後九名を

檢するの勇氣なくヨカノと驚き去る、此遺骸を寶珠院に葬りたり今に殘る十一士の墓石には香華を供し弔訪の絶へ間ない大正九年十一士の靈は東京靖國神社に合祀する(寫眞参照)

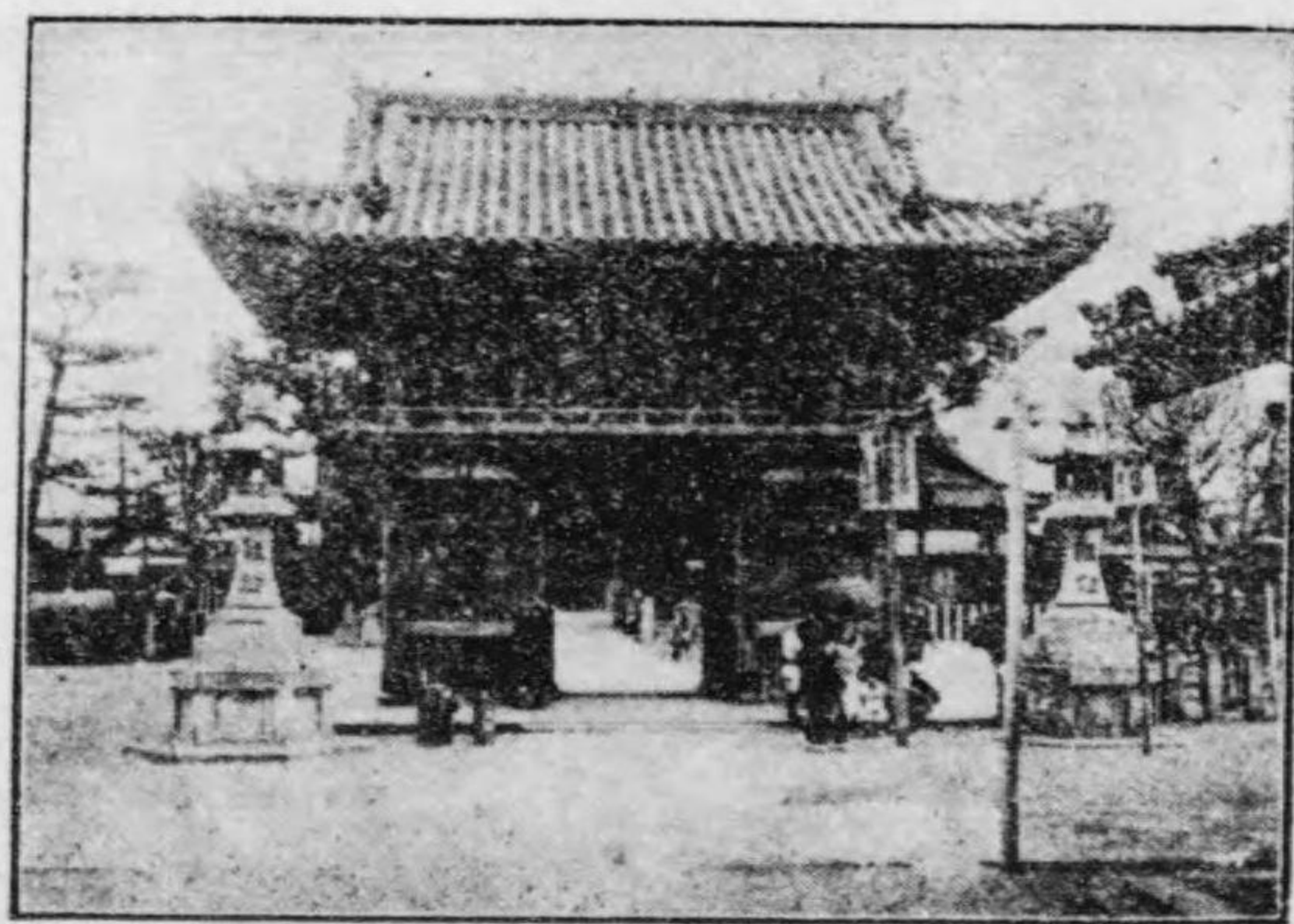


(墓の士一十)院珠寶

●妙國寺 は材木町東三丁にあり日蓮宗の名刹にて永祿年間日珠僧止の開基にて僧正は堺市の豪商油屋常吉の子なりと傳へ三好長慶の叔父實久は地區を寄進し油屋常吉は堂樓を建て輪奐の美を極めたり、豊臣秀吉、小西行長其他の從臣も皆大檀那であつた元和年間關東關西の大戦に大阪落城の際大野道賢此寺に火を放ちたれば此大堂宇も烏有に歸したりしが後年再建せらる、庭内の蘇鐵は信長時代の逸品にして信長塚の地より此蘇鐵を江州安土の城に引き歸りたるに毎夜此蘇鐵妙國寺へ歸る／＼の聲を出すより信長の如き強膽なる人も之に驚きてか亦々堺へ返されたりと云ふ境内三重の塔は名匠左り甚五郎の作なり寶物拜觀また見るべきもの數多し

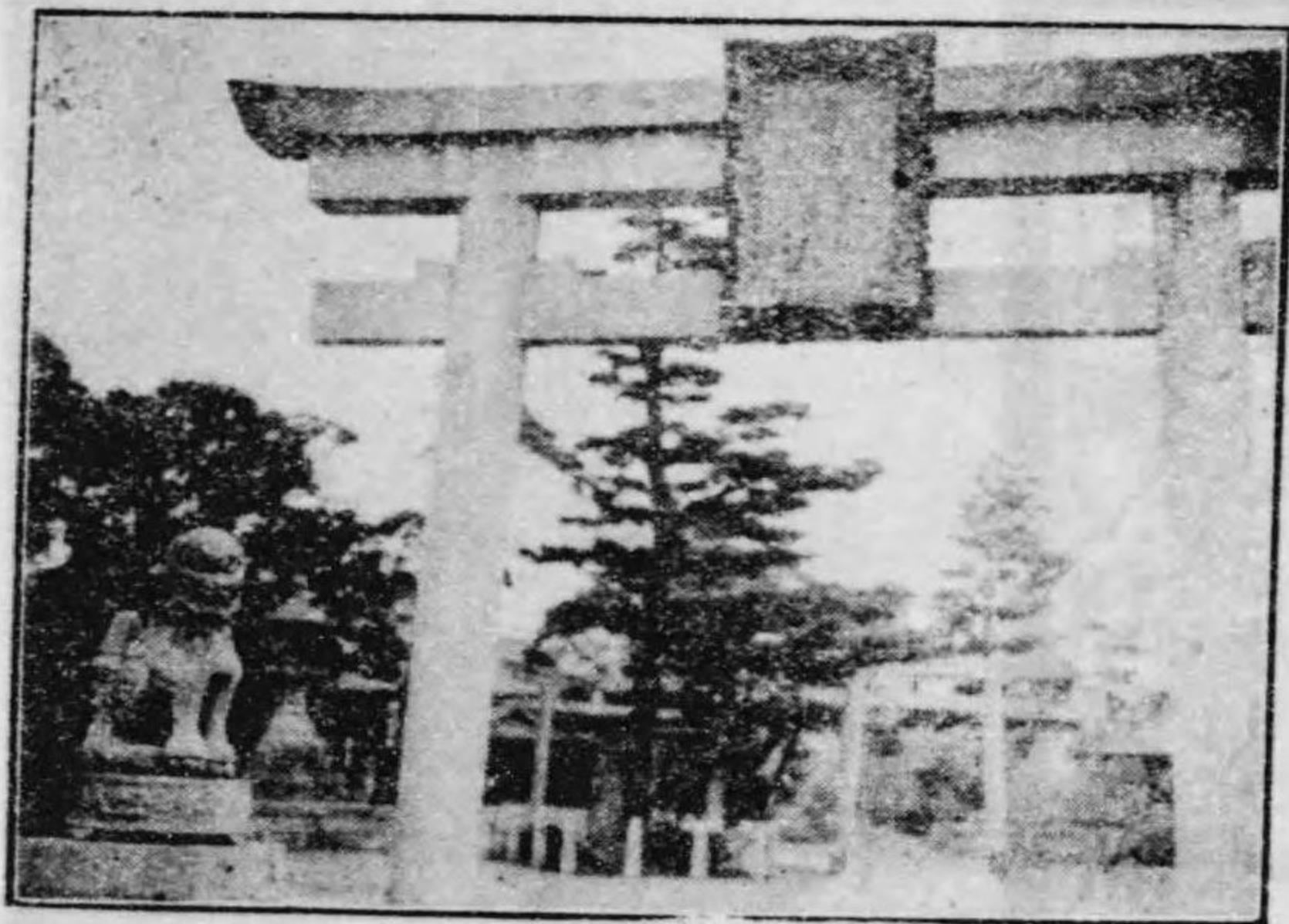
●菅原神社 は前記妙國寺の西門を南に二丁餘、阪堺線花田口停留所より東へ一丁の處即ち戎之町東

一丁にありて創建詳ならずも維新前は天臺宗にして常樂寺と稱してゐたが明治初年郷社に列せられ祭神は天穗日命、野見宿禰、菅原道真を祭る神社で我國の七天神の



(社神原菅)

一と稱する菅公自作の像を納めあり境内四千里に近く壯麗なり、合祀するは琴平社、神明社、熊野社等あり此社は山之口筋に通ずる盛りに場なる爲參拜者の絶へ間なし、



(社神遠方)

●北門内西側に小劇場戎座あり(寫眞参照)

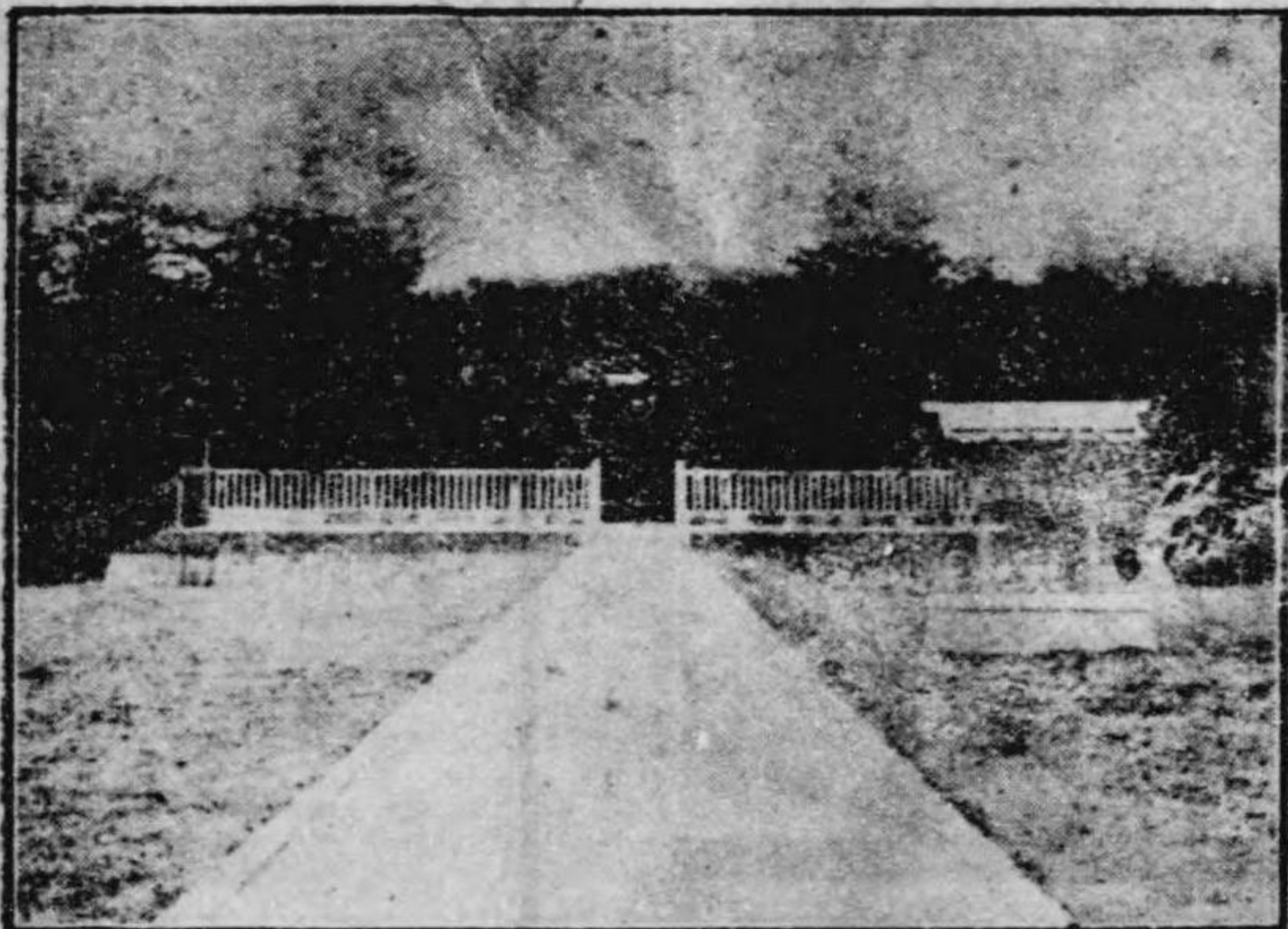
●東本願寺別院 櫛屋町東四丁にありて南無坊と稱し先年堂宇は失火の爲に烏有に歸し目下再建中なり

●方違神社 は向井町三國ヶ丘にありて神功皇后を祀つた社で方除の神様として護符を受に來る者遠く數十里を隔たりたる地より態々參拜せるを以て其名高し境内に東原社と稱して素盞男命を祀つた社がある(寫眞参照)

●反止帝御陵 は方違神社の南畔にありて百舌鳥耳原南陵と稱す

●紅谷庵 は反正帝御陵の南半丁の處にあり、もと堺の豪商紅谷某の別荘であつて牡丹花宵柏が此處に住し太永七年此處に没した、宵柏の持佛の間を佛殿としたのが此庵で本尊は觀音大士である、▲府立

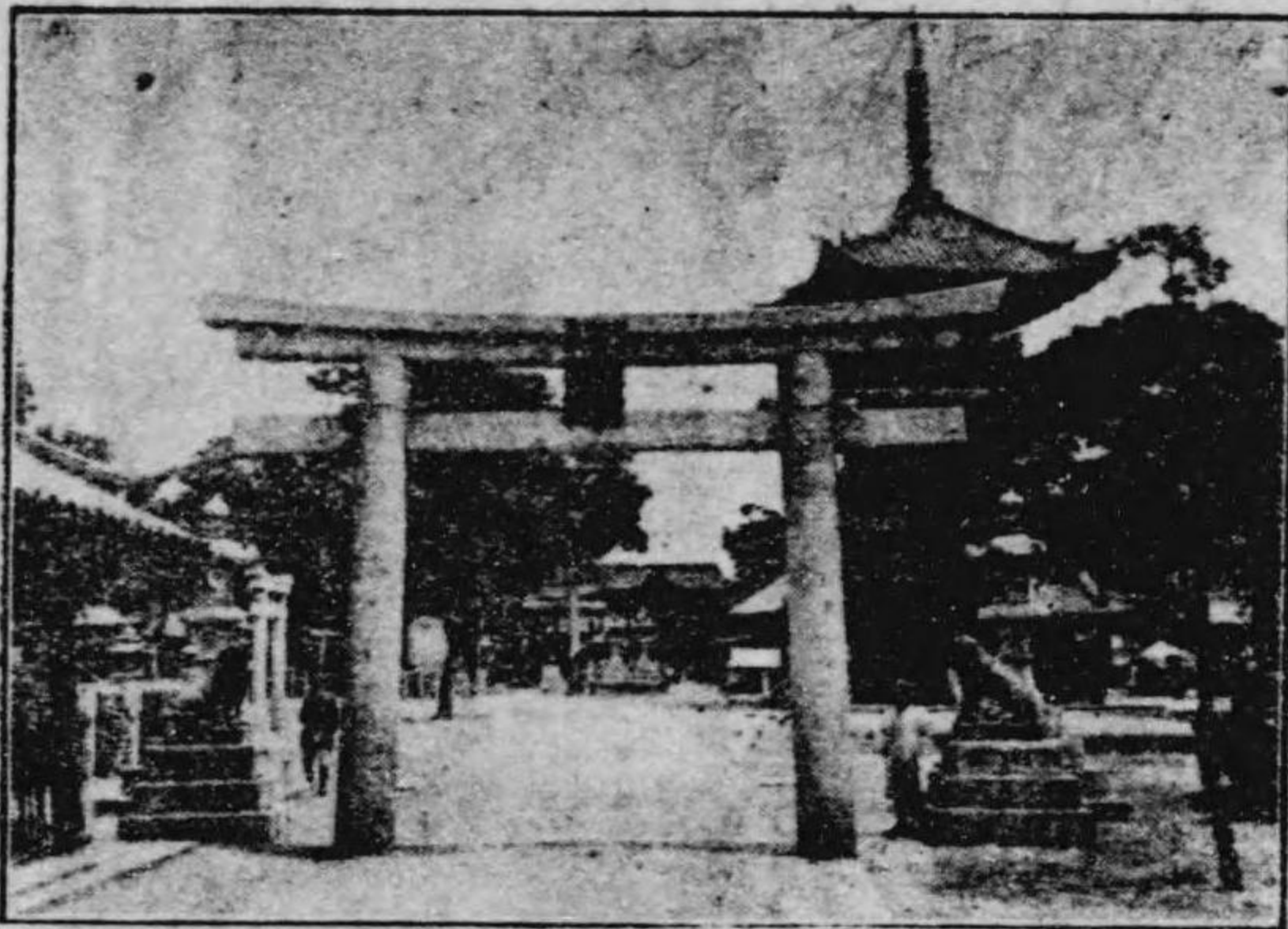
此庵の前に
有る(方遠)
神社、反正
帝御陵紅谷
庵寺は高野
線堺驛より
二丁餘東で
ある、
●仁徳帝御
陵は高野
野線堺驛の
南方船松村
(驛より約
十五丁)に



(陵御皇天徳仁)

あり百舌鳥耳原中陵、又は大仙陵と稱し兆域周圍二十餘町規模の壯大なる我國第一である、▲その西南五丁に履中帝御陵あり百舌鳥耳原南陵と稱す(寫真参照)
●開口神社 市内に歸つて甲斐川東一丁に開口神社あり住吉神社の別宮で三村明神と號せし時代もあり祭神は事勝國勝長狹及び生國魂神、素盞男命等を祀り神功皇后時代の鎮座である後聖武帝の御宇行基が密乘山念佛寺といふ寺を創建したと云ふので別名を大寺と稱す境内に三重の塔、繪馬堂、瑞祥閣、白毘社、庚申社を合祀す當社は堺市市之町以南の氏神なり、名物大餅は南門内に賣る(寫真参照)
●宿院 開口神社の南門を出て一丁南に卯之日座劇場あり西半丁に大鳥神社と住吉神社の御旅所あり毎年七月卅一日八月一日には両社より此所へ御輿の

渡御ありて
(お秋祭り)
と稱し熱鬧
を極む此附
近に浪花節
定席旭席
落語定席壽
館、活動寫
眞の電氣館
等あり殊に
市の中央娛
樂場たれば
晝夜の別な
く雑沓す、
▲山之口通



(社神口開)

は御旅所前の南北に通じ各種商家櫛比す
●祥雲寺 宿院の東二丁にあり寛永五年堺の豪商谷正安と稱する人澤庵和尚に歸依し祥雲庵を創建し同十六年祥雲寺と改む此寺内に名樹五葉の松ありて一般縦覽に供したりしが先年枯死す、今尚ほ松の寺と云ふ
●旭連社 寺地町東三丁(阪堺線にては寺地町停留所東へ三丁にして本堂の壯麗は本市屈指の名刹を示せり同社の別名は大阿彌陀經寺と稱す明治十年より廿七年まで大阪裁判所堺支廳に充てられ廿八年寺有に編入せられ今日に至る寺は智恩院に屬し淨土宗なり寺内本堂南面には卅七八年戦役に際し本市の最大名譽を双肩擔ひて滿韓の野に晒したる忠勇八十有五士の盡忠報國烈士の碑あり
●少林寺 旭連社南門西の辻南へ入る東側にあ

と桃源和尚の開基にて禪宗なり、寺内には白藏主稻荷を祀り狂言狐釣其他狐に關する劇を演ずる際は必ず當社に參詣すべしと云ふ不思議の傳説ありて俳優の參詣多し
●大安寺 南旅籠町東三丁(少林寺より南へ一丁餘)にあり寺は禪宗東福寺派にして徳秀和尚の開基なり慶安年間堺の豪商魚屋助左衛門禪道に歸依して其書院を擧げて當寺に寄附し佛殿とせるものなり寺内に松永久秀刀痕の柱ありて今に歴然たり座敷間に入れば松檜の間に猿猴膝梅の間、鶴の間等ありて此鶴の間は法眼元信の筆と傳へ障襖に畫ける狩野永徳二十六羽の鶴筆添の松は最も名高く其他弘法大師作觀音像、助左衛門寄進の壺、爐、利休の時雨の井戸利久の愛せし棗形手水鉢等ありて旅行家の觀覽を乞ふ者日々絶へる事なし



(寺宗南)

●南宗寺 龍興山と稱し南旅籠町東三丁大安寺に西接せるにあり寺は臨濟宗大徳寺派の末派にして本山一派専門の道場なり、本尊は釋迦如來を安置す、弘治年間には壯

嚴なる雪場
たりしも天
正二年松永
久秀の爲に



を悉く鳥有に歸し只脇堂坐雲亭、鐘樓を殘せり其後澤庵和尚は喜老見忠勝、岸和田城主小山寺英、堺市の中村某等と共に協力出資して再建今日に至るものなるが寺域六千四百六十四坪あり、坐雲亭は徳川秀

市の中央
樂場たれば
晝夜の別な
く難查す
▲山之口通

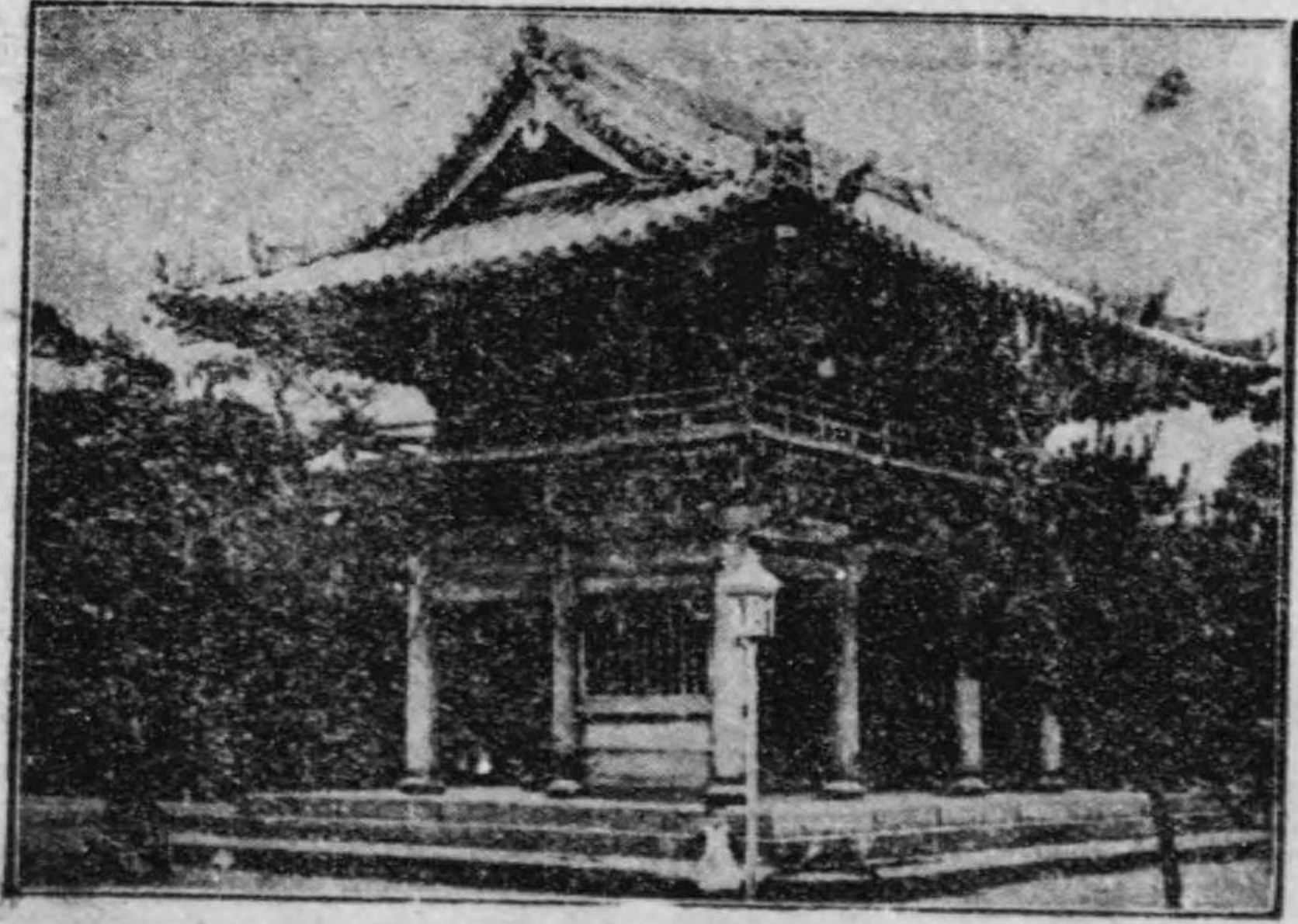


桃源和尚の開基にて禪宗なり、寺内には白藏主稻荷を祀り狂言狐釣其他狐に關する劇を演ずる際は必ず當社に參詣すべしと云ふ不思議の傳説ありて俳優の參詣多し

●大安寺 南旅籠町東三丁（少林寺より南へ一丁餘）にあり寺は禪宗東福寺派にして徳秀和尚の開基なり慶安年間堺の豪商魚屋助左衛門禪道に歸依して其書院を擧げて當寺に寄附し佛殿とせるものなり寺内に松永久秀刀痕の柱ありて今に歴然たり座敷間に入れば松檜の間に猿猴膝梅の間、鶴の間等ありて此鶴の間は法眼元信の筆と傳へ隣襖に畫ける狩野永徳二十六羽の鶴筆添の松は最も名高く其他弘法大師作觀音像、助左衛門寄進の壺、利休の時雨の井戸利久の愛せし聚形手水鉢等ありて旅行家の觀覽を乞ふ者日々絶へる事なし

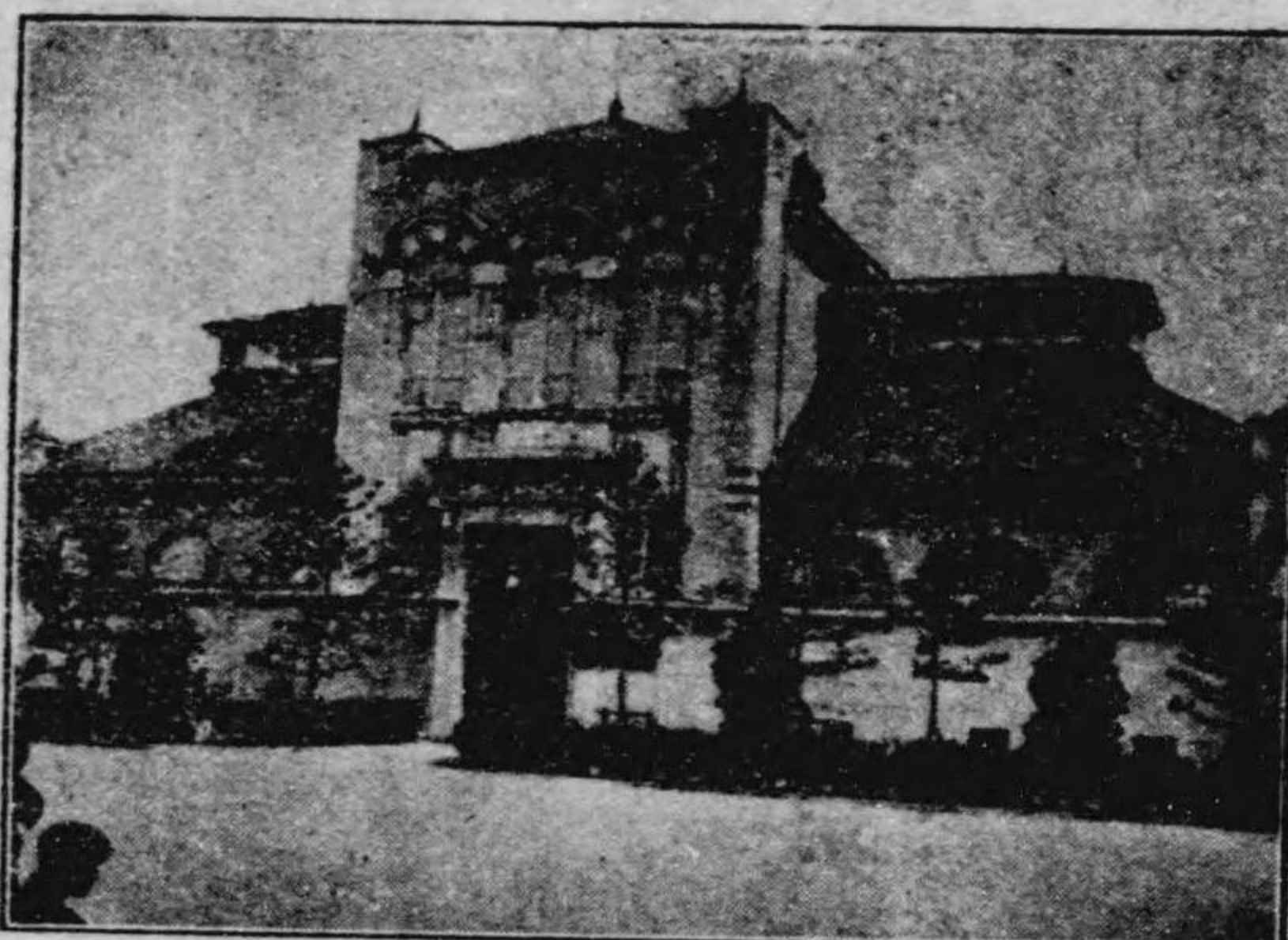
有に編入せられ今日に至る寺は智恩院に屬し淨土宗なり寺内本堂南面には卅七八年戰役に際し本市の最大名譽を双肩擔ひて滿韓の野に晒したる忠勇八十有五士の盡忠報國烈士の碑あり

●南宗寺 龍興山と稱し南旅籠町東三丁大安寺に西接せるにあり寺は臨濟宗大徳寺派の末派にして本山一派専門の道場なり、本尊は釋迦如來を安置す、弘治年間は壯



(寺宗南)

嚴なる靈場たりしも天正二年松永久秀の爲に兵火の災に罹り堂塔坊舎の大半を燒盡し元和元年四月再度の兵火の爲に經藏、山門惣門伽藍方丈、小方丈、庫裡、大書院其他



(所列陳品商堺)

を悉く烏有に歸し只脇堂坐雲亭、鐘樓を殘せり其後深庵和尚は喜老見忠勝、岸和田城主小山吉英、堺市の中村某等と共に協力出資して再建今日に至るものなるが寺城六千四百六十四坪あり、坐雲亭は徳川秀忠、家光の兩將軍の休憩せる所、古織部設計の庭園の雅致ある縁下無名の塔は大坂夏合戦の際徳川家康が眞田幸村の智計に敗退せし跡なりと稱す、寺内には牡丹花宵柏、一閑齋紹風、千利休、曾呂利新左衛門等の墓あり殊に寺寶觀る可き物多し(寫眞參照)

●臨江庵 南半町東一丁南宗寺の西接にあり乳守明神を祀る、婦人の乳を守る神として相當に名高く參詣者又多し門内東側に會我九郎時宗の墓あり建久の昔白拍子虎が此庵に修業したる際に殘したるものなりと云ふ庭園に萩多く花の頃は杖を引くもの殊に多く故に萩の寺とも稱し乳女郎とも云ふなり

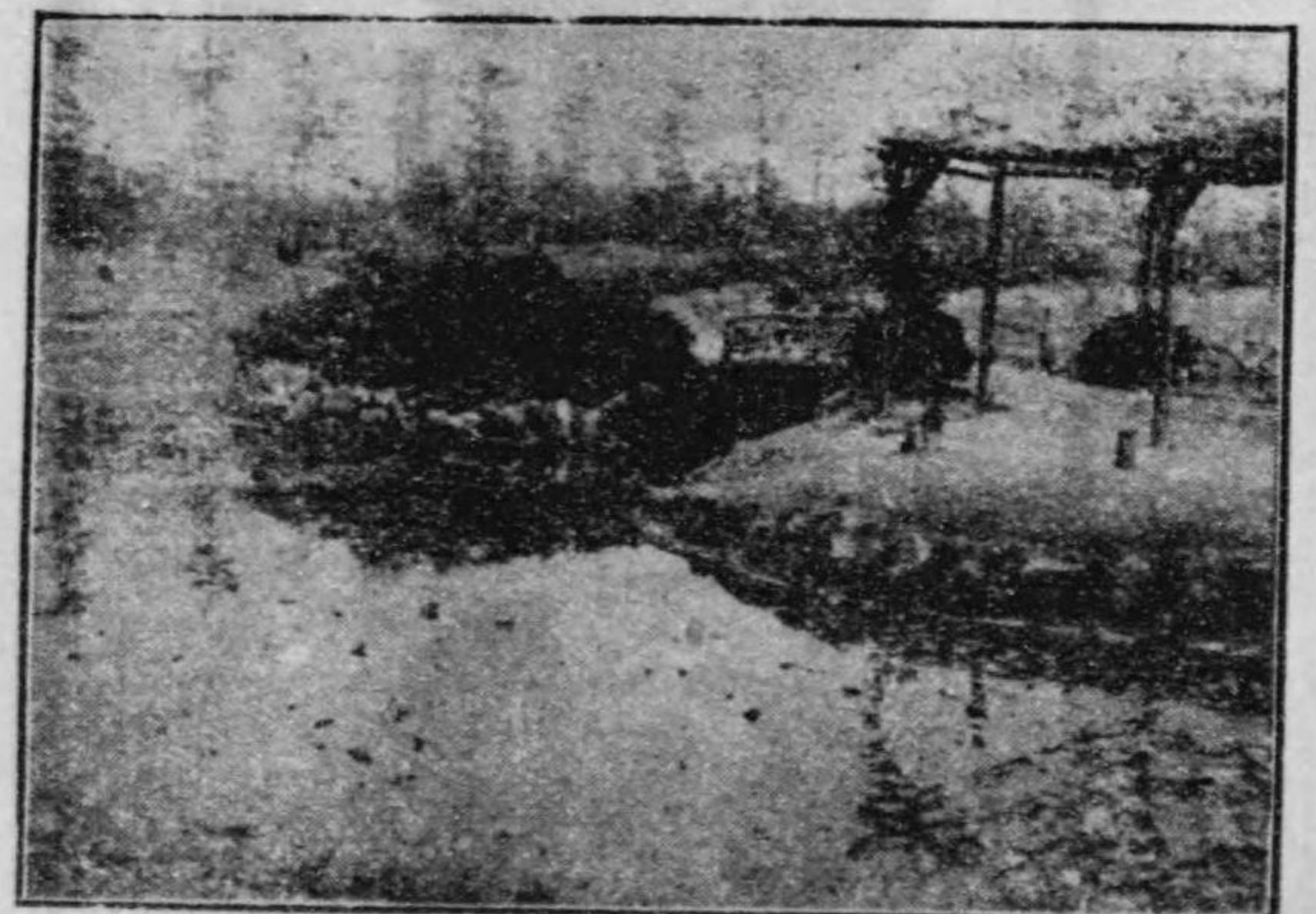
●乳守遊廓 南半町南旅籠町東一丁にあり

●大濱公園地 市の西端大濱通にあり大阪灣を望んだ海濱一帯の地である、電車の便では南海鐵道阪堺支線なれば大濱海岸終點、南海本線なれば龍神驛で阪堺支線に乘換へ大濱海岸終點で下車すればよい、此地は舊砲臺にて陸軍省の所屬地なりしを明治廿八年四月より堺市が公園の設備を施したもので以來歲月を経ると共に設備を完全し現今に至るものなるが堺市を代表し堺市民の常に誇りとしをる名勝地であつて北公園地、南公園地と區別してある

●堺水族館 大濱公園内(阪堺線終點)の東前にあり明治卅六年第五回内國勸業博覽會の附屬水族館なりしを閉會後堺市に譲り受けしものにて館内大小卅餘の魚槽には海魚川魚の珍奇なるもの幾百幾千魚槽を順次見るに連れ恰も海底旅行をなすの感あり

て自から浦島太郎を氣取りて乘らぬ龜に乗りて龍宮城へも押しかけん(寫眞參照)

●堺市商品陳列所 水族館庭園内にあり御大典記念事業として大正三年十月



(園公新濱大)

起工し大正四年三月竣工同年四月一日より開館したるものなるが堺市の産業を一目のもとに視察するもよし(寫眞参照)

●大濱潮湯 阪堺線大濱海岸終點前の一、大建築物は即ち南海鐵道株式會社經營の潮湯である敷地總坪數二千七百餘坪、二層樓洋風本館の建坪千三百坪、二層樓和風家族湯建坪二百廿坪ありて本館は男女浴室を區別しあるは勿論なるも階下は休憩室、脱衣室浴室に分ち階上は休憩室として鳥菊經營の食堂賣店及び余興場を設け晝夜間斷なく汐湯專屬の人氣俳優出演して新派喜劇を上演しつゝあれば一日の遊樂場として好適せり(寫眞参照)

●北公園 北波止公園とも稱す聊が交通に不便なるも渡船の便あり、此地は沙干狩即ち貝類採取の名區として世に名高く陰曆桃の節句頃には非常なる熱鬧にて海面數十町の干潟は人を以て埋む、園の東隅に波除住吉神社、及び堺港灣を改修したる吉川俵右衛門氏を表彰したる記念碑あり

●天誅組義士上陸地 榮橋通二丁目旭橋詰にあり、其上陸記念碑文の譯したる一端を記す。(我國の中世は王室式微に武臣跋扈す、志士仁人之を憂ひ之を慨き或は之を口に上せ或は之を書に筆すありしも、而も未だ能く之を行ひて實にする能はざりし、夫れ唯之を口にし唯之を筆にする、知りて行はざる者は、時勢未だ至らざるものありと雖も恐らくは空言の譏りを免れず、亦志士仁人の事にあらざり、文久三年癸亥秋八月天誅組なる者奮然として驟起し將に幕府を討伐せん、能く知り能く行ふ者と謂ふ可きなり、義士吉村寅太郎以下三十余人中山待從忠光卿を推して盟主となし籌畫既に定まり

同月十四日京師を發し激川を下り浪華に至り武器を求め二大船に搭載し呼唱して曰く將に先づ勅使を導きて長州に赴かんとす、而して攝海に入るや忽ち命じて曰く船を堺浦に着けよと、藩夫は惶惑して命に従ふ、義士松本奎堂船首に立ちて曰く此舉は生死を以て神明に誓ひ還期を知らずと、先づ自ら鬚を斷て海に投じ衆皆之に倣ふて堺浦の旭橋畔に上陸す、是に於てか故衣を脱し甲冑を擧ぎ以て隊伍を整へ振々として軍を進め河内の國に向ふと云ふ、期乃ち回天戰舉の嚆矢となす(以下略)

堺市の産業一覽

堺市に於ける重なる工業物を記すと左の如うである
▲清酒、味淋、酢、醬油、緞地、足袋、煉瓦、打及物、セルロイド、セルロイド製品、薰物線香、自轉車及部分品、鉛丹、グエルベツト、瀛車及電車、金巾、スコップ、シヨベル、縮木綿、肥料、綿糸

清酒醸造家一覽

名	稱	酒名	所在地
宅合名會社	澤龜		九間町西一丁
大塚合名會社	金露		熊野町西一丁
柴谷合名會社	東洋一		九間町西二丁
肥塚合名會社	都菊		熊野町西二丁
大塚三郎兵衛	菊泉		神明町西一丁
平野利兵衛	延命		寺地町西一丁

- ▲堀部徳平、大町東二丁目▲小田庄三郎、宿院町東二丁目▲鳥井伊平、甲斐町東二丁目▲鳥井龜吉、甲斐町西二丁目▲綿谷喜平、南半町▲小田松次郎、熊野町東二丁目▲松六醬油合資會社、寺地町西一丁目▲合名會社南風商店、少林寺町東二丁目▲新谷其兵衛、北旅籠町▲

龍宮城の一大模型を作り大喝采を博す、▲毎年七月卅一日和泉の一の宮大鳥神社の祭典當夜は棧橋一丁南に大魚市ありて近畿地方より此魚市を見んと集る者例年數萬を尊へ廣大なる大濱公園も人の海と變じて押な(寫眞参照)

●菊人形館 は大濱新公園にありて大濱の新名所として大正六年九月末より約貳ヶ月間開館以後毎年九月末より二ヶ月余開館し例年大喝采大好評を博し大濱に遊びて菊人形を見ざれば日光を觀ずして結構と云ふなと稱するが如く潮湯と共によく人の知る處である▲霧島人形は之も毎年四五の二ヶ月間菊人形館にて開館し菊人形と同様大評判(寫眞参照)

●大濱燈臺 南公園地の北端にありて海拔五丈一尺ありし灣口の美觀又之に依つて階段の光彩を放つ燈臺下突堤より北岸を望む即北公園なり(寫眞参照)

上陸地碑文は老儒岡村駒峰翁の撰文なり、上陸地は堺市の天詠外史矢半田安朗翁明治廿八年其肇初の地は煙没荒廢せるを深く憂ひ大阪府知事に上申し其官有地に記念碑を建つるの許可を得て爾後獨力保存なし以て尊王尚武の氣を鼓舞する事既に廿有六年を経て今日に至る

●龍神廟と榮橋廓 龍神遊廓は龍神橋通二丁目住吉橋通二丁の一圓にあり榮橋廓は榮橋橋通二丁目住吉橋通一丁にありて堺市の粹天地とす

鹿島合名會社

- 益田嘉平 味の鳩 宿院町大道
- 大澤徳平、大町東三丁目▲森本仁平、戎之町東四丁目▲未吉平兵衛、市之町東四丁目▲北海清酒合資會社、熊野町西二丁目▲吉田五郎兵衛、櫛屋町西一丁目▲宅與三郎、市之町東五丁目▲阪之上清三郎、市之町西五丁目▲小谷クス、市之町東三丁目▲辰じムメ、大町▲大工町清酒合資會社、寺地町東二丁目

醬油醸造家一覽

名	稱	醬油名	所在地
河盛又三郎商店	カワマタ		新在家町大道
生島嘉久次郎商店	キツコ		宿院町西三丁目
戸川源之祐商店	キツコ		市之町西三丁目
柴谷延雄商店	カチサン		材木町東一丁目
指吸富之助商店	アサヒ		寺地町西二丁目

浦島足袋株式會社(本社)

- 少林寺町西一丁目▲關西足袋カバ一株式會社、南旅町西三丁目▲山口松太郎、東港町▲小林民藏、少林寺町東一丁目▲中田嘉平、櫛屋町西一丁目▲岸吉松、大町東一丁目▲宮口榮次

ありし、而も未だ能く之を行ひて實にする能はざりし、夫れ唯之を口にし唯之を筆にする、知りて行はざる者は、時勢未だ至らざるものありと雖も恐らくは空言の譏りを免れず、亦志士仁人の事にあらざるなり、文久三年癸亥秋八月天誅相なる者奮烈として蹶起し將に幕府を討伐せんことを、能く知り能く行ふ者と謂ふ可きなり、義士吉村寅太郎以下三十余人中山待從忠光卿を推して盟主となし籌畫既に定まり

は煙没荒廢せるを深く憂ひ大阪府知事に上申し其官有地に記念碑を建つるの許可を得て爾後獨力保存なし以て尊王尚武の氣を鼓舞する事既に廿有六年を経て今日に至る
●龍神廟と榮橋廊 龍神遊廓は龍神橋通一二丁住吉橋通二丁の一圓にあり榮橋廊は榮橋橋通一二丁住吉橋通一丁にありて堺市の粹天地とす

堺市の産業一覽

堺市に於ける重なる工業物を記すと左の如うである
▲清酒、味淋、酢、醤油、穀油、足袋、煉瓦、打及物、セルロイド、セルロイド製品、薫物線香、自轉車及部品、鉛丹、グエルベツト、流車及電車、金巾、スコツプ、シヨベル、縮木綿、肥料、綿糸

清酒醸造家一覽

名	稱	酒名	所在地
宅合名會社	澤龜	九間町西二丁	
大塚合名會社	金露	熊野町西二丁	
柴谷合名會社	東洋一	九間町西二丁	
肥塚合名會社	都菊	熊野町西二丁	
大塚三郎兵衛	菊泉	神明町西二丁	
平野利兵衛	延命	寺地町西二丁	

醬油醸造家一覽

名	稱	醬油名	所在地
河盛又三郎商店	カワマタ	新在家町大道	
牛島嘉久次郎商店	キツコ	宿院町西二丁	
戸川源之祐商店	キツコ	市之町西三丁	
柴谷延雄商店	カチサン	材木町東二丁	
指吸富之助商店	アサヒ	寺地町西二丁	

▲堀部徳平、大町東二丁▲小田庄三郎、宿院町東二丁▲鳥井伊平、甲斐町東二丁▲鳥井龜吉、甲斐町西二丁▲綿谷喜平、南半町▲小田松次郎、熊野町東二丁▲松六醬油合資會社、寺地町西一丁▲台名會社南風商店、少林寺町東二丁▲新谷甚兵衛、北旅籠町▲守新治郎、新町

打刃物製造卸商一覽

▲酒井包義商店 下し 大町 大道
▲山家由太郎、錦之町西一丁▲袋谷藤一造、九間町▲木村寛、大町東三丁▲豊田正造、吾妻橋一丁▲石割作左衛門、綾之町西一丁▲荒井徳藏、錦之町▲金永利三郎、柳之町

足袋製造卸業一覽

▲福助足袋株式會社(本社) 市之町西二丁

▲浦島足袋株式會社(本社) 少林寺町西二丁
▲關西足袋カバ一株式會社、南旅籠町西三丁▲山口松太郎、東港町▲小林民藏、少林寺町東一丁▲中田嘉平、櫛屋町西一丁▲岸吉松、大町東一丁▲宮口榮次市之町東二丁▲藪本榮太郎、中之町東二丁

線香薫物製造家一覽

▲尾田八兵衛、神明町大通▲津川甚七、熊野町▲中田作五郎、車之町▲永井竜太郎、九間町東一丁▲樽井正太郎、市之町東三丁▲種田卯之吉、戎之町東四丁▲田畑和兵衛、宿屋町▲大今喜平、市之町東三丁▲小山松榮堂、宿屋町▲奥野久次郎、熊野町▲鬼頭勇次郎、戎之町東二丁▲大塚源平、材木町西一丁

清酢醸造家一覽

▲大阪造酢株式會社 玉廼井酢 櫛屋町西二丁
▲鳥井與之助、大町西二丁

重なる緞通製造家一覽

▲山本龜松商店 中之町西三丁
▲藤原市松、中之町西一丁▲赤井辰造、南旅籠町西二丁▲山田中商店、少林寺町東二丁

▲小島屋泰信 けし餅 少林寺町西二丁
▲鳥 菊 親子井 大濱潮湯階上

重なる株式會社一覽

名	稱	所在地
大阪織物株式會社	並松町	
大日本セルロイド株式會社	七道松西	
同 人造肥料株式會社堺工場	住吉橋通一丁	
大阪工業藥品株式會社	北附洲新田	
日本グエルベツト株式會社	西港町	
惠比須織物株式會社	花出口町	
長崎紡績株式會社	吾妻橋二丁	
堺瓦斯株式會社	遠里小野町	

名	稱	所在地
關西製油株式會社	神明町西二丁	
關西窯業株式會社	柳之町西三丁	
堺加工セルロイド株式會社	七道松東	
大阪窯業株式會社堺工場	南附洲新田	
堺スコツプ株式會社	舊向井町北庄	
日本工業株式會社	寺地町西四丁	
堺自轉車製器株式會社	綾之町大道	
堺大濱土地株式會社	大町大道	
岸和田紡績堺工場	戎島一丁	
福島紡績堺工場	西港町	
日本木管株式會社	車之町西二丁	
株式會社便利商會	大町西四丁	
堀富商工株式會社	新在家町東一丁	
日の出自動車株式會社	大町西二丁	
堺酸素株式會社	寺地町西一丁	
堺製綿株式會社	熊野町東二丁	
大阪電燈株式會社堺營業所	龍神橋二丁	
南大阪電氣鐵道株式會社	舊向井町瓦町	
大阪窯業株式會社堺工場	南附洲新田	
浪速紡績株式會社堺工場	同	

●各工場一覽

梅鉢鐵工所
淺香スロップ製造所
万代自轉車工場
湯淺蓄電池工場
中島硝子工場
大井硝子工場
近藤製藥工場
丹治煉瓦工場
岡村香油所
福島コークス製造所
葛村コークス製造所
大和川染工場
同 第二工場
同 第二工場
鉛市鉛丹工場
河盛織物工場
平野ゴム製造所
島秀鐵工所

並松町
綾之町
向陽町
花田町
瓦陽町
向陽町
舊北庄
軸松村

再妻橋二丁
錦之町西三丁
並松町
七道松東通
舊向井町北庄
田出井町
南附洲
神明町

川崎貝卸工場
福助足袋工場
浦島足袋工場

少林寺町西四丁
安井町
寺地町西二丁

●重なる合名會社一覽

東洋セルロイド工業所
合名會社吉岡兄弟商會
堺エナメル合名會社堺製油所
辻井奈良合名會社
奈良吉合名會社
別途合資會社
大町精米合資會社
堺良燐合資會社
河上兄弟商會
日の本鐵工所
森合名會社

翁橋町
九間町大道
吾妻橋三丁目
南旅籠町西二丁
甲斐町東一丁
宿屋町西一丁
大町四丁
少林寺町
並松町
住吉橋一丁
熊野町東二丁

大西銀行本店
兒山銀行

甲斐町大道
同町東三丁

●各銀行一覽

十五銀行堺支店
大阪貯蓄銀行堺支店
和泉貯金銀行堺支店
不動貯金銀行堺支店
五十一銀行堺支店
寺田銀行堺支店
報德銀行堺派出所
河泉銀行堺支店

熊野町大道
大町大道
同
同
熊野町東一丁
大町大道
大町西一丁
東港町一丁

●重なる各種商工組合一覽

堺實業協會
堺商工會
堺工業協會
堺肥料商組合
堺造醬油組合
堺材木商組合
堺魚商組合
堺質屋組合
堺綿絲商組合
堺酒樽商組合

堺市戎之町西二丁
同 住吉橋通二丁
同 住吉橋通一丁
大町東二丁
甲斐町東四丁
熊野町西二丁
寺地町西四丁
戎之町東一丁
市之町大道
熊野町西二丁

堺利器同業組合
堺薰香同業組合
堺酒造組合
堺木綿商組合
堺薪炭卸業組合
堺茶業組合
堺漁業組合
堺米穀商組合
大阪煉瓦製造組合
大阪府綬通同業組合
堺足袋裝束商組合
堺酒類商組合
堺履物商組合
堺金物商組合
堺吳服商組合
堺薪炭小賣商組合
大阪菓子同業組合堺支部
大阪昆布同業組合堺支部
堺湯屋業組合

戎之町天神境内
戎之町西一丁
甲斐町西一丁
戎之町西二丁
吾妻橋三丁
中之町東一丁
中之町西一丁
熊野町東二丁
戎之町西一丁
市之町西五丁
市之町東一丁
戎之町西一丁
大町東一丁
寺地町大道
大町東一丁
材木町大道
熊野町東二丁
宿院町東一丁
甲斐町大道

●在堺新聞社一覽

南海日々新聞社
泉州日報社
堺新聞社
堺朝報社
浪花赤新聞社
和泉新報社
關西新聞社
堺新報社
阪南毎日新聞
阪タイムズ社

熊野町西四丁
熊野町大道
同
材木町
戎之町東二丁
大町西一丁
材木町
宿院町東一丁
宿院町
中之町西一丁

●重なる旅館料理業

一力樓本店
一力樓旅館部
茅海樓
川芳樓
九万樓

料理兼旅館
大濱公園地
同
同
同
同

●堺市の寄席

卯之日座
電氣館
旭席
壽館
龍神座

活動寫眞
浪花節
落語
劇場

宿院境内
同
同
龍神廓内

熊野町大道

●旅行

丸三樓
大濱ホテル
丸辰樓
丸波樓
松波樓

同
同
同
同
同

北公園地

●南海阪堺支線電車運轉時刻

堺市内を貫通する阪堺線電車運轉時刻は(午前四時半)冬季五時頃より
大阪惠美須町

- 堺工業協會
- 堺肥料商組合
- 堺造醬油組合
- 堺材木商組合
- 堺魚商組合
- 堺質屋組合
- 堺綿絲商組合
- 堺酒樽商組合
- 住吉橋通二丁
- 大町東二丁
- 甲斐町東四丁
- 熊野町西二丁
- 寺地町西四丁
- 戎之町東一丁
- 市之町大道
- 熊野町西二丁

- 堺酒類商組合
- 堺履物商組合
- 堺金物商組合
- 堺吳服商組合
- 堺薪炭小賣商組合
- 大阪菓子同業組合堺支部
- 大阪昆布同業組合堺支部
- 堺湯屋業組合
- 戎之町西一丁
- 大町東一丁
- 寺地町大道
- 大町東一丁
- 材木町大道
- 熊野町東二丁
- 宿院町東一丁
- 甲斐町大道

- 堺洗濯湯熨斗業組合
- 堺料理屋業組合
- 宿屋業組合
- 堺飲食業組合
- 堺洋服商組合
- 堺小廻船運送業組合
- 堺大工業組合
- 堺理髮業組合
- 堺備入請負業同盟組合
- 甲斐町東一丁
- 熊野町
- 同
- 同
- 戎之町東二丁
- 吾妻橋一丁
- 戎之町東二丁
- 甲斐町西三丁
- 熊野町東二丁

- 堺市の寄席
- 卯之日座 活動寫眞 宿院境内
- 電氣館 同 同
- 旭席 浪花節 同
- 壽館 落語 同
- 龍神座 劇場 龍神廓内
- 旅行
- 旅
- 本部
- 熊野町大道

- 在堺新聞社一覽
- 南海日々新聞社
- 泉州日報社
- 堺新聞社
- 堺朝報社
- 浪花赤新聞社
- 和泉新報社
- 關西新聞社
- 堺新報社
- 阪南毎日新聞
- 堺タイムス社
- 熊野町西四丁
- 熊野町大道
- 同
- 材木町
- 戎之町東二丁
- 大町西一丁
- 材木町
- 宿院町東一丁
- 宿院町
- 中之町西一丁

- 頂なる旅館料理業
- 一力樓本店 料理兼旅館 大濱公園地
- 一力樓旅館部 同
- 茅海樓 同
- 川芳樓 同
- 九万樓 同

- 丸三樓 同
- 大濱ホテル 同
- 丸辰樓 同
- 丸波樓 同
- 松波樓 同
- 耳卯樓 同
- 阪鶴樓 同
- 高菱館 同
- 扇屋旅館 同
- 加茂藤館 同
- 吉野館 同
- 商取引の紹介は
- 各地より本市内の商工業者に取引をなすに際し夫が調査若くは紹介を依頼せらる場合は堺市役所商工課又は堺市立商品陳列所に就いて紹介されるは最適當として前記の商工課、商品陳列所に於ては努めて迅速に精確調査を行ひ適當なる營業者を紹介すべし
- 中之町
- 市之町東二丁
- 材木町
- 榊屋町
- 甲斐町
- 大町東一丁

●南阪堺支線電車運轉時刻

堺市内を貫通する阪堺線電車運轉時刻は(午前四時半)冬季五時頃より
大阪惠美須町
▲濱寺驛前間 十分毎夜十一時半頃迄
▲大濱間 十分毎夜十二時頃迄
▲宿院間 五分毎夜十二時頃迄
▲賃金
(一區券四錢)(二區券八錢)(三區券十一錢)(四區券十四錢)(五區券十七錢)(六區券二十錢)(七區券二十三錢)(八區券濱寺、平野廿六錢)(回数切符(百區分金三圓)外に通行税五錢)

●堺高田間電車開通期

南大阪電氣鐵道(表面略圖線)は堺市市之町東六丁(大小路橋畔)より大和國高田町に至る特許線にして大正九年十一月南大阪電鐵株式會社を創立し大正

十年十二月より工を起し遅くも大正十二年四月頃迄には河南古市町迄の一部線を開通し高田町迄は大正十二年末に竣工全通の豫定なるが本線全通の曉は大和河内一圓、和泉國及堺市間の商取引其他の連絡に非常なる利便を來すならんが堺市街圖の一部分を割きて豫定線の略圖を掲載し以て商工業及旅行家の爲に参考に資せん。

●お断り

本堺市街地圖は本社に於て細密調査をなし名勝案内記其他にありても各方面に亘り材料を蒐集し最新刊としたるも近時堺市の變遷は非常なるものにて尙更に改正す可き地點等無きにしもあらざれば順次再版の上完全を期すべし

堺タイムス社地圖編集部

大正十一年三月廿五日印刷 (定價金貳拾錢)
大正十一年四月一日發行

編輯兼印刷發行人 阪東常治郎
堺市中之町西一丁七番地
發行所 堺タイムス社
堺市中之町西一丁

●堺販賣店

- 堺市大町山之口 今井文岳堂
- 同 熊野町山之口 北村書店
- 同 市之町山之口 鈴木書店
- ▲大阪特約販賣元
- 大阪市東區南久太郎町心齋橋筋 田村熙春堂
- 同 鹽町四丁目御堂筋西入 益井文英堂

▲明治廿二年市制實施以來卅年此間堺市の商工業は
漸時勢力を増して發展し市の膨脹と共に堺市は多年
の懸案宿題ごしいたりし接近町の港、向井の両町を
市に編入し擴張したるを以て兩翼を延ばしたる一大
堺市となれり、茲に堺市が市制實施以來の人口戸數
を記すと以下の如くである（明治廿二年現在戸數九
一五二戸、人口四七六六七人）同卅二年戸數九三三
二戸、人口五〇八〇一人（大正三年戸數一二七七〇
戸、人口六八〇六二人）同五年戸數一三四九八戸、
人口七〇八五五人（同七年戸數一四二二戸、人口
七四九〇〇人の増加を示し大正九年四月接續町の港
向井兩町を合し▲戸數に於て一六七二四戸となり人
口に於て八萬五千九百廿四人に激増せり

●高須神社 南海鐵道阪堺支線にて大和川の鐵橋
を涉つて南詰の大和川停留所を通過して次の停留所
が高須停留所で即ち高須神社前である位置は堺市北
半町東二丁上居川に面し境内は幽閑なり、此神社の
附近は古へ高須遊廊のありし地にして一休和尚地獄
太夫によつて其名高し

●本派本願寺別院 高須神社より南へ六丁電車の
便では高須停留所、綾之町、神明町の停留所にて下
車東二丁に（本派本願寺）の別院がある、文明年間樫
木屋消顯なる人自分の居宅を寺にして蓮如上人に捧
げたと云ふので今に樫木屋御堂と云ひ傳へられ或は
北御坊と稱す

●善長寺 別院に隣して善長寺は淨土宗 本尊は
十一面觀世音、永正年間三好長義が靈夢によつて寺
内の松樹の下より掘り出せりと傳へ此寺を別名松の
觀音とも稱す

終